

記者会見 2014.3.13 (木)

京都大学と河合塾による高校2年生4万人
「学校と社会をつなぐ調査」の結果

調査企画・分析担当者

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail mizokami.shinichi.4u@kyoto-u.ac.jp

「学校と社会をつなぐ調査」概要

目的: 高校2年生から約10年の追跡調査をおこない、学校での学習や日常生活の過ごし方が、大学での学びや社会に出てからの仕事や人生の過ごし方にどのような影響を及ぼすかを検討する。

実施概要: 大学進学率約7-8割の高校(河合塾の資料より全国約1,500校の生徒を対象)を調査対象の母集団として設定し、全国都道府県の教育委員会、高校に協力を要請して実施。教室での配布、インターネット、郵送等で、165,687名の高校生に調査票への回答を求め、結果、45,311名が回答(27.6%回答率)。

調査実施の流れ:



高校2年生の日常の活動時間、行事参加、対人関係等から 7タイプに分類可能

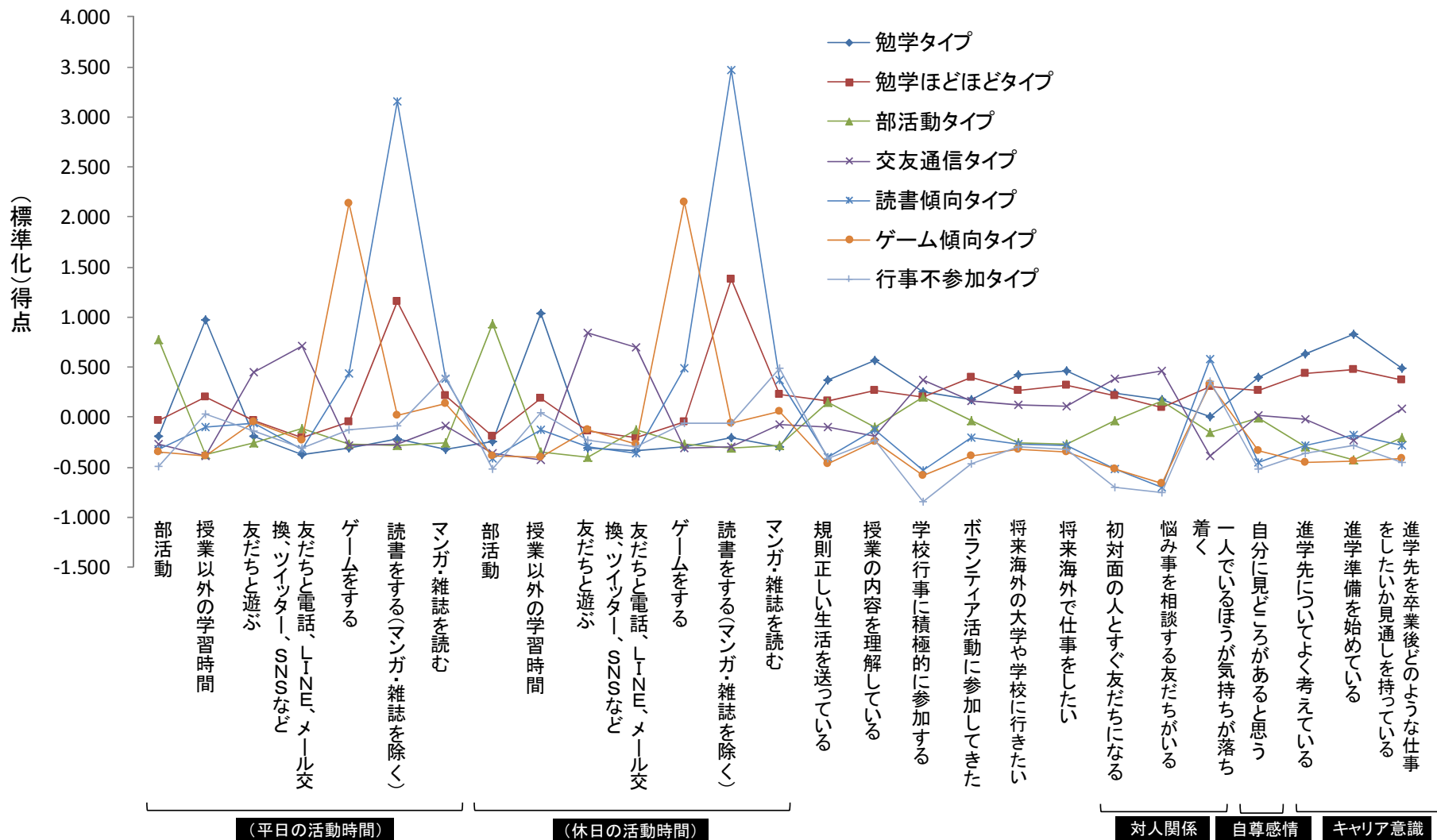
「部活動」「授業外学習」「友だちと電話、LINE、メール、SNS」「ゲーム」「読書(マンガ、雑誌を除く)」「マンガ、雑誌を読む」など、授業、睡眠、食事など以外の自由時間の典型的な過ごし方を平日と休日で記入してもらった。それに行事参加や対人関係等を加えて約4万人の高校2年生を分析すると、7タイプに分類されることがわかった。

(%)

高校生タイプ	男子	女子	全体
1. 勉学タイプ(授業外学習時間が顕著)	22.5	27.9	25.1
2. 勉学そこそこタイプ(授業外学習も多いが、そこそこに他の活動もしている)	7.7	7.8	7.8
3. 部活動タイプ(部活動時間が顕著)	28.9	26.0	27.3
4. 交友通信タイプ(友だちと遊ぶ、電話、メール、SNSなどの時間が顕著)	9.7	22.0	16.1
5. 読書傾向タイプ(マンガ、雑誌以外の読書時間が顕著)	3.0	1.5	2.2
6. ゲーム傾向タイプ(1人でゲームする時間が顕著)	12.7	2.1	7.3
7. 行事不参加タイプ(上記の活動だけでなく、学校行事にも参加しない)	15.5	12.6	14.1

*全体には性を答えたくないという回答した者を含む

図 高校生の7タイプ



クラスタ分析(K-means法)

将来の見通し(キャリア意識)は「勉強タイプ」「勉強そこそこタイプ」で高く、「読書傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」「部活動タイプ」で低い

大学でしっかり学び、さまざまな活動に参加するのに、将来の見通しが必要だという結果が一貫して見いだされている。高校2年生の時点で進学先についてどの程度考えているか、進学先を卒業した後の仕事について見通しを持っているかを尋ねてみると、「勉強タイプ」「勉強そこそこタイプ」で得点が高く、「読書傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」「部活動タイプ」で得点の低いことがわかった。**将来を見通すキャリア意識が、勉強と関連していることがわかった。**

高校生の7タイプ	進学先を考えている	仕事の見通しがある
1. 勉強タイプ	3.64	3.11
2. 勉強そこそこタイプ	3.49	2.99
3. 部活動タイプ	2.96	2.48
4. 交友通信タイプ	3.17	2.78
5. 読書傾向タイプ	2.94	2.40
6. ゲーム傾向タイプ	2.84	2.30
7. 行事不参加タイプ	2.90	2.26

質問

- ・あなたは、どのような進学先(どの大学、どの学部、どの専門学校など)にするか、どの程度考えていますか。(4)よく考えている ~ (1)考えていない
- ・あなたは、進学先(大学や短大、専門学校など)を卒業した後、どのような職業に就きたいか、どのような仕事をしたいか、その見通しをどの程度持っていますか。(4)かなり持っている~(1)まったく持っていない

汎用的能力(ジェネリックスキル)を伸ばしているのは「勉学タイプ」「勉学そこそこタイプ」。停滞しているのは「読書傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」。

過去1,2年を振り返って、「社会の問題を分析したり、考えたりできる」「他の人と議論することができる」「異文化や世界に関心を持つことができる」力が伸びていると自己評価した割合が高いタイプは「勉学タイプ」「勉学そこそこタイプ」。逆に、伸びていないと自己評価しているのは「読書傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」であった。大学や社会で求められる力の伸びが、ここからも**勉学と関連**していることがわかる。

高校生の7タイプ	社会の問題を考える	他の人と議論する	異文化や世界に関心
1. 勉学タイプ	3.59	3.73	4.00
2. 勉学そこそこタイプ	3.61	3.79	3.95
3. 部活動タイプ	3.00	3.33	3.36
4. 交友通信タイプ	2.95	3.39	3.59
5. 読書傾向タイプ	3.15	3.25	3.39
6. ゲーム傾向タイプ	2.93	3.04	3.07
7. 行事不参加タイプ	2.82	2.86	3.19

☞ 詳しい分析手続きは「補足資料」にあります

質問

過去1、2年を振り返って、次の事柄はあなたのなかで伸びていると思いますか。 (5) 伸びた～(1) 伸びていない

②社会の問題に対して分析したり考えたりすることができる

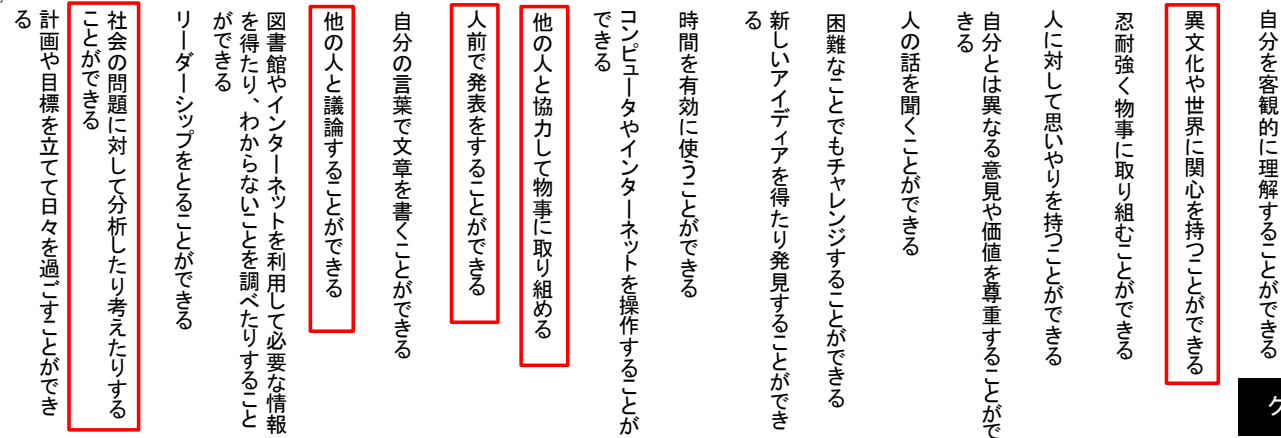
⑤他の人と議論することができる ⑦異文化や世界に関心を持つことができる

(5)伸びた

4.5
4
3.5
3
2.5
2

新しく求められている汎用的能力(ジェネリックスキル)

(1)伸びていない



- ◆ 勉学タイプ
- 勉学ほどほどタイプ
- ▲ 部活動タイプ
- × 交友通信タイプ
- * 読書傾向タイプ
- ゲーム傾向タイプ
- + 行事不参加タイプ

図 高校生タイプと汎用的能力(ジェネリックスキル)の伸びとの関連

高校現場では文武両道が重要だと言うが、基本は「勉学」！ そのうえで、勉学タイプの部活動両立はやはり最強！

高校の現場からは、勉学と部活動の両立、いわゆる「文武両道」が重要だとよく言われる。本調査結果からは、それが、勉学タイプの部活動両立型1を指すものであり、部活動タイプの勉学両立型7を指すものではないことが明らかとなった。部活動をしていない勉学タイプ3は、キャリア意識においては勉学タイプ1とさほど得点が異ならなかったが、汎用的能力(ジェネリックスキル)の得点には差が見られた。この差異は、大学に入って影響を及ぼすかもしれない。

いずれにしても、少なくとも、高校段階での大学や社会に向けて必要とされる汎用的能力(ジェネリックスキル)の伸び、キャリア意識には、勉学が必要であるとまとめられる。

高校生タイプ×両立	全体における割合	社会の問題を考える	他の人と議論する	異文化や世界に関心	進学先を考えている	仕事の見通しがある
1. 勉学タイプ +部活動両立している	16.1	3.64	3.77	4.01	3.64	3.10
2. 勉学タイプ +部活動両立していない	3.4	3.41	3.67	3.92	3.59	3.11
3. 勉学タイプ +部活動をしていない	5.8	3.50	3.62	3.89	3.61	3.09
4. 勉学そこそこタイプ +部活動両立している	4.8	3.67	3.82	3.99	3.50	3.00
5. 勉学そこそこタイプ +部活動両立していない	1.6	3.45	3.79	3.85	3.43	3.04
6. 勉学そこそこタイプ +部活動をしていない	1.4	3.70	3.73	4.05	3.50	2.96
7. 部活動タイプ +勉学両立している	14.8	3.07	3.37	3.38	3.00	2.49
8. 部活動タイプ +勉学両立していない	12.4	2.85	3.24	3.33	2.91	2.48

← 5%以上のタイプ

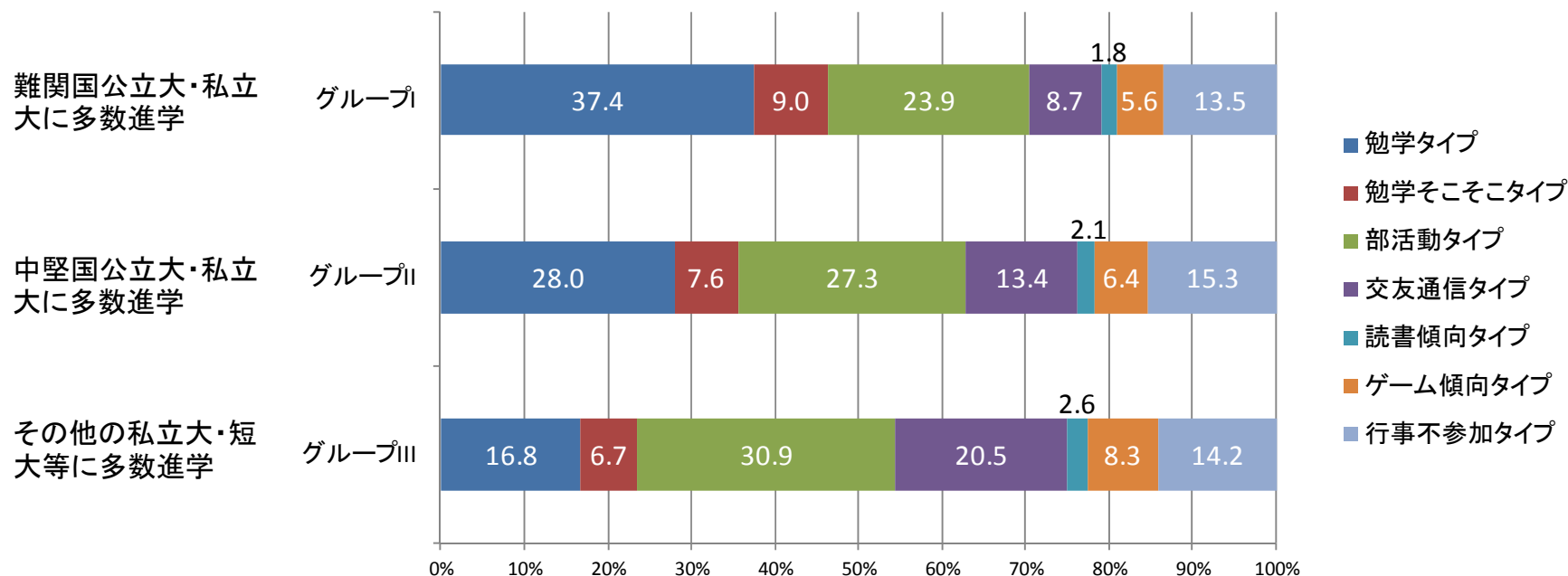
*スライド3の高校生タイプと、下記の質問の結果を、両立している(1 or 2)、両立していない(3 or 4)、部活動をしていない(5)にまとめ、クロスした結果を示している。ここでは、高校生7タイプのうち、勉学タイプと部活動タイプのみを抽出している。

質問

部活動と学習とを両立させることができますか。

(1) できている (2) まあまあできている (3) あまりできていない (4) できていない (5) 部活動はやっていない

難関大学への進学実績が高いグループで「勉強タイプ」が多く、進学実績が比較的高くないグループの2倍以上の割合を有する。他方で、「交友通信タイプ」は、進学実績が比較的高くないグループで多く、進学実績が高いグループの2倍以上の割合を有する。「行事不参加タイプ」は、進学実績に関係なく、どのグループにも10～15%はいる。



「グループ分類は、河合塾の調査による」

I グループには、たしかに「勉強タイプ」が多く見られるが、汎用的能力(ジェネリックスキル)・キャリア意識の低いそれ以外のタイプも半数以上見られる。彼らのなかには、残りの高校生活のなかで受験勉強をして、旧帝大をはじめとする難関大学へと進学する者も多い。このことを踏まえて、調査2時点目(大学1年生を対象に追跡調査、2015年)の分析仮説として、次のことを考えている。

- ◆勉強タイプ、勉強と部活動両立の観点から見て、これらが大学生の学びと成長に果たしてつながるのか。
- ◆勉強タイプ以外の生徒が、受験勉強を短期間で仕上げ難関大学へ進学する場合、彼らの大学生になってからの汎用的能力(ジェネリックスキル)やキャリア意識はどのようになっているのか。

まとめ

- ◆高校生は、平日・休日の過ごし方、行事参加、対人関係、自尊感情、キャリア意識の特徴から、大きく7タイプに分類できる。
- ◆大学や社会で求められる汎用的能力(ジェネリックスキル)、将来への見通し(キャリア意識)の得点が高いのは、「勉強タイプ」「勉強そこそこタイプ」であった。勉強が密接に関連していることが明らかとなった。他方、「読書傾向タイプ」「ゲーム傾向タイプ」「行事不参加タイプ」は、汎用的能力(ジェネリックスキル)・キャリア意識の得点が低かった。「部活動タイプ」のキャリア意識も低かった。
- ◆汎用的能力(ジェネリックスキル)やキャリア意識につながる文武両道とは、勉強タイプにおける部活動との両立であることがわかった。
- ◆難関大学への進学実績が高いグループでは「勉強タイプ」が多く、進学実績が比較的高くないグループでは「交友通信タイプ」が多かった。「行事不参加タイプ」は、大学進学状況に関係なく、どの学校にも10～15%はいることがわかった。
- ◆2時点目(大学1年生、2015年実施予定)の分析仮説:
 - ・勉強タイプ、勉強と部活動両立の観点から、大学生の力強い学びと成長に果たしてつながるのか。
 - ・難関大学への進学実績が高い高校の勉強タイプ以外の生徒が、受験勉強を短期間で仕上げ難関大学へ進学する場合、彼らの大学生になってからの汎用的能力(ジェネリックスキル)やキャリア意識はどのようになっているのか。